



安心とつるおの「下町」川の手をめぐりて

防災 まわづり瓦版

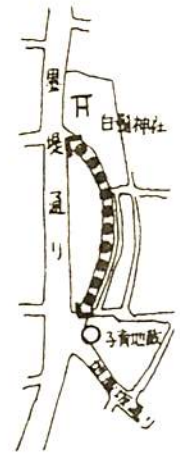
発行ノ一言問を防災のまちにする会

平成2年6月1日



装いを新たにされた旧墨堤之道

ありし頃の白髭神社本殿
工事が完成する直前に、放火
によって焼けてしまいました。



住居跡は路地帯のある大和湯の前
西川春潤・宇住信房跡

きゆうぼくていのみち 旧墨堤之道が装いを新たに

かつての墨堤の名残りととどめる唯一の道・旧墨堤之道が装いを新たにし、ご近所では「歩きやすくなった」「明るくなった」と、とても評判です。

一言会が旧墨堤之道の整備をご近所に提案したのは、今から三年前の夏のことでした。その後、ご近所の人たちと一言会の担当理事、墨田区の担当者の間で何度も会合を重ねてきました。時間はかかりましたが、その分みんなの思いを何らかの形で実現することができたかと思えます。



ポラード(車止め)

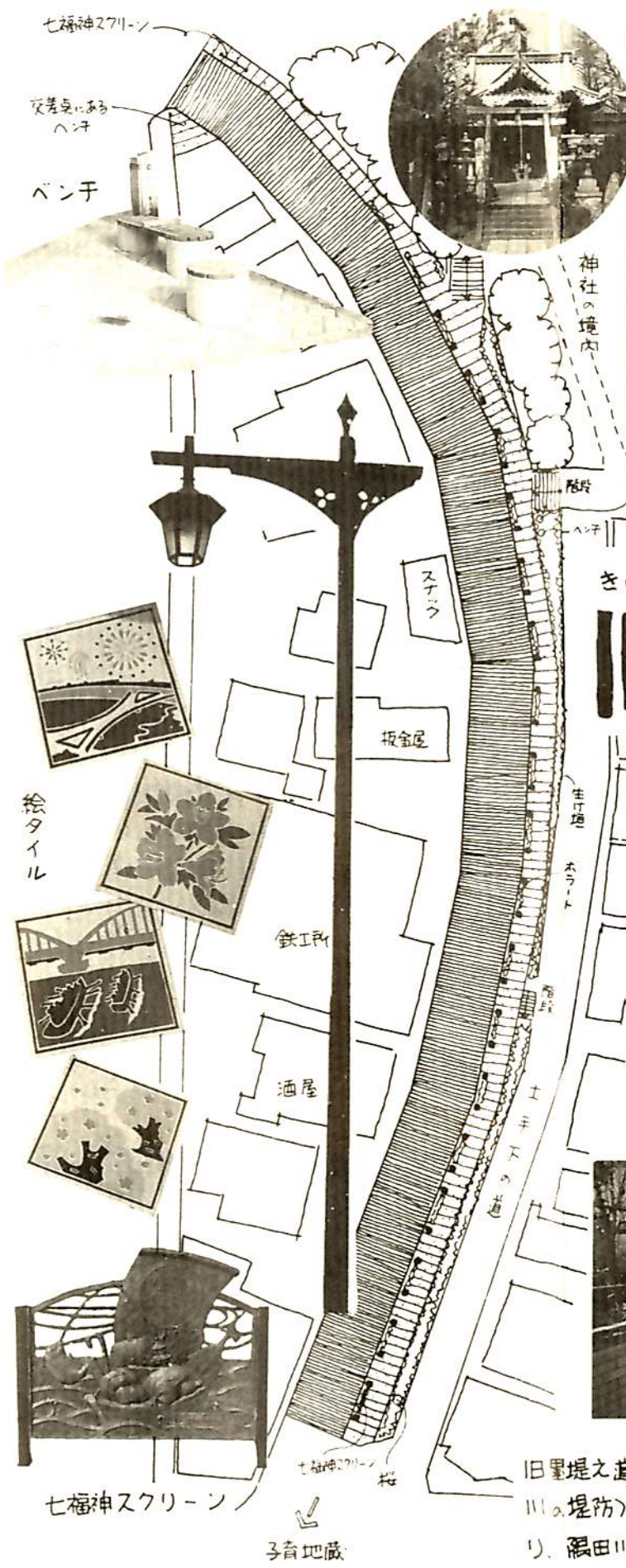


タイルで化粧した土手の壁



工事前の旧墨堤之道

旧墨堤之道は、桜で有名な墨堤(江戸時代の隅田川の堤防)の名残りを留める区内唯一のみちであり、隅田川七福神めぐりのルートにもなっている。



私がまちづくりスタッフです

その19

堤通一丁目

野中義頼さん
(一言会 副会長)



平成元年、堤通一丁目町会長になられた。故星野町会長に代わり、昭和61年から町会長代理をなさっていた。

出身は埼玉県。旧制中学を卒業、16才で志願して、小豆島の船舶特別幹部候補生隊に入隊。わずか4ヶ月で終戦。運送会社に経理で就職したが、部隊で覚えた運転技術が役立ち、大型トラックを乗りこした。

結婚し、この土地に住んで38年。お仕事の建築材料業も、そろそろ店じまいしようかと考えられている。

「ここに住んでよかったと思えるまちにしたいですね。」日焼けされた頬が、ゆっくり言葉を選んで話して下さる。

「旧墨堤之道も時間がかかりましたね、住民と話し合い、住民に喜ばれる道に整備されて良かったですよ。」

硬かった表情が大きな笑みへ変わった。町会長として、胸のうちに思うことがあったに違いない。ほっとした笑顔は印象的でした。(純)

115 255 300 310
一寺言問 / 防災まちづくり瓦版
第21号 平成2年6月1日発行
編集 / 一寺言問を防災のまちにする会・編集局
高原純子・若木菊枝・木田茂男・木田文代
編集協力 / マヌ都市建築研究所
発行 / 一寺言問を防災のまちにする会・事務局
墨田区都市整備部開発促進課内
〒130 墨田区横綱1-6-1 tel.(626)3151

面目を一新した「旧墨堤之道」



歩道広げカラー舗装 ガス灯やベンチ設置

墨田区東向島三丁目「旧墨堤之道」が、住民の意見を採り入れて整備され、面目を一新した。
この道は、幹線道路の墨堤通りに沿って、白鬚神社から地藏坂通りに至る延長百六十メートルの区道。江戸時代からの隅田川の土手の道として、現墨堤通りが出来たまではメインストリートだった。白鬚神社の参道にもあたる。
今回の整備は、歩道幅を5.5メートルに広げ、カラー舗装(車道二方面通行)は八割のままで、ガイドレールを撤去し、代わりに車止めの「ボラード」を設けた。また、ガス灯、寺宮門を防災のまちにするの照明灯六基、ベンチ四基も設置された。
さらに、同神社が、隅田川の道(「くろつなぎ」)として事業を進められた。同会では、昭和六十二年の秋から会合や視察を重ねた。「近くの向島百花園のイメージも採り入れよう」「墨堤通りらしく、桜があればな」「白鬚神社の参道らしく」などと議論は白熱。区の担当者が「今までにそういう例がないから」とタジタジとなるほど、住民側は積極的だったという。
同会の徳永暢男さん(五七)は「白鬚東地区防災拠点への避難路にもあたり、万が一に備え、ふだんから親しみのある道に整備されて何より」と話しており、来月中旬にも、同会が完成記念式を開く予定だ。



向島五丁目の防災小緑地「向島有季園」が、新緑の緑で包まれています。昨年は虫がついて大変悩まされました。今年は昨年、経験を生かして育てているようです。6月16日(土)には、利用者が集まり、墨田区の緑化係の専門家といっしょに、みんなで生け垣のせん定をする予定です。

有季園の生け垣の剪定会 6月16日

言問小の前の道路が広がった

防災活動拠点になっている言問小の正門側の生け垣が枝倒れにさがり、その分道路が広くなりました。



白鬚神社の参道

「旧墨堤之道」風情豊かに

読者新聞 4月19日(木) 朝刊



これからの維持管理をどうする!?

5月24日の夜、沿道の人々をはじめ、工事にたずさわった墨田区の担当者も参加して、ささやかな完成祝賀会を開きました。当初はテフカットや渡り梁めといったイベントを考えていたが、ご承知のように白鬚神社が焼けてしまったため、「あまりはたかことをするのよくないだろう」という判断から、残念ながら関係者だけの慰労会になりました。

話題は、これからの維持管理の方法に集まりました。「まずはひとりひとりが家の前を手入れすることから始めたらどうか」「専門家に教えてもらいながら、みんなで行け垣の剪定をしたらどうか」「問題が発生した時のために、住民と行政がそれぞれ窓口を一本化したらどうか」など、たくさん意見が出ました。みんなが自主的に片づけ張りすに楽しくできるといいですね!

お見付きですか? 旧墨堤之道の桜



子育地藏の入口に墨堤の桜再生のシンボルという意味を込めて桜が植えられています。豆桜といって文字通り小さな桜ですが、虫のつきにくい丈夫な桜だそうです。お隣りはスリムになった電柱。大きくな、でも電柱よりも細いかな!?

